

貨物引き取りサービスを開始 自社の「成田ロジスティクスセンター」向け

ワコン株式会社

物流梱包資材メーカーのワコン（和歌山県紀の川市、☎0736-77-2203）は2019年12月、運送業許可を取得してPACKPRO事業部の「成田ロジスティクスセンター」（千葉県芝山町）向け貨物の引き取りサービスを開始した。集荷まで行うことで、作業の迅速化など顧客利便性の向上を図る。

成田国際空港を出発する輸出貨物の梱包サービスを担うため、2014年に開設された同センター。CAD/CAMを用いたジャストサイズの段ボール梱包、独自開発の断熱容器や保冷剤を活用した保冷・保温梱包、シミュレーション技術による定温輸送サービスなどを展開する。-20℃・5℃・20℃の温度帯に分かれた大型定温庫を完備し、輸出申請が可能な保税蔵置場の許可も得ている。

どこよりも速く輸出梱包する目的から、空港まで車で約10分の場所に立地する一方、宅配便などで運ばれてくる貨物が大半で、チャーター便の利用は少なかったという。しかしなが



倉庫面積1983.5㎡の「成田ロジスティクスセンター」

ら、医薬品を中心として梱包・輸送時間の短縮に対する潜在ニーズは高いとみて、新サービスの実施に踏み切った。混載によって従来のチャーター便よりもコストは抑えられる。

今回、トラック5台を配備してスタートしたが、さらなる拡充を視野に入れている。西田耕平社長は「当社の梱包サービス利用者が対象だが、将来的には成田空港に入るもの全てを混載集荷することが考えられる。軌道に乗れば、関空ロジスティクスセンター（大阪府泉南市）でも展開したい。いわゆる箱屋、梱包屋から脱皮し、サプライチェーンの一端を担っていきたい」と抱負を語る。

フレキシ印刷 (FFG) で美粧段ボールを製造

ワコン本社工場で生産する段ボール事業については昨秋、既存の3色フレキシフォルダーグーラ (FFG、新幸機械製) を駆使しての美粧印刷を始めた。これまで同社では、オフセット印刷後の板紙を片面段ボールに合紙した美粧段ボールを販売していたが、3色掛け合わせの高品質なフレキシ印刷を段ボールシートに直接施すことで1工程化し、納期やコスト面での課題をクリアした。

細部デザインの再現性をアップするため新型アニロックスロールを導入し、紙粉除去装置も設置。さらに、一定範囲のサイズであればA式ケースの継ぎ目 (のりしろ) を外側にできるようにした。通常、内側に継ぎ目が来るため、傷つきやすい物を入れる場合はテープを貼ったりパッドを入れたりしたが、その手間と費用が抑えられる。

差別化が難しいとされる段ボール分野でも、同社は製販一体のミーティングなどを通じて開発力、営業力を向上させている。今後は、2018年8月に連結子会社となったボックスメーカーのワコン・ウエダ (奈良県生駒市) との相乗効果も期待される。